

R6年度 園評価にもとづく課題

- ・職員に自己評価を行う。

結果

- 1、保育理念・保育観 できている 72%、 努力が必要 47%
(評価、課題)

ほとんどの職員が設問1の「保育所保育指針～」に努力が必要という結果だった。また、設問5, 6も多く多くの職員が努力が必要と思っていることから、一人ひとりの援助や対応の柔軟性と保育所保育指針の読み込みが足りないというのが、課題としてみえた。

2、保育内容

- ①保育計画・指導計画 できている 50%、 努力が必要 50%
(評価、課題)

設問1, 2と参考にしていない、が圧倒的に多く、個人の主観が主になっている傾向があることがわかった。また、設問4, も多いことから、話し合いや、お互いの考えの理解に欠けていることがわかった。

- ②乳児保育 できている 79%、 努力が必要 21%
(評価、反省)

設問7, 8に集中して努力が必要と回答が多く、一人ひとりの育ち、生活にもう少し目を向けていくことが必要。

- ③3歳未満児保育(1, 2歳児保育) できている 65%、 努力が必要 35%
(評価、反省)

設問13, 17, 20, 21に努力が必要が多く、個別対応への難しさがでてるように感じた。

- ④3歳以上児保育(3, 4, 5歳児保育) できている 52%、 努力が必要 48%、
(評価、反省)

一人ひとりに応じた環境作りだったり、言葉かけだったり、まだまだ向上しなければと思っていることがわかった。

2, 特別な配慮を必要とする子ども（障害児）の保育
できている 62%、 努力が必要 38%
（評価・反省）

環境や相談に応じる、という部分が弱いことがわかった。

3, 行事 できている 54%、 努力が必要 46%、
（評価・反省）

行事を進めていく中で、主体性の部分で、日々の保育からつなげていくことの難しさがでていた。

（総合評価）自己評価は高く、子どもを思う気持ちは強く感じられるが、保育所保育指針の理解などの向上や、環境の見直しや個人対応の難しさ、主体性保育の難しさを感じていることがわかった。また、園内において、自分の考えが思うように伝えられない傾向があったので、発言する機会や、今後、研修などで、少しでも保育の質の向上ができるようにしていく。

・保育士や保育補助の急な退職により、常に人手不足となっていた。その背景には、発達に課題のある子に個別対応が必要な子が多かったことがある。（集団保育において）

・運動会・発表会の時期をずらし開催。参加しやすかったと保護者には好評だった。園においては、年度かわりすぐの行事となり、前クラスとの連携や引継ぎ、新しい担任が子ども達との信頼関係作り、準備まで、忙しい日々となった。

・未満児においては行事参加がないので、保育参加を増やして園に来てもらう機会を作った。

・保護者を招く行事では、詳細の連絡が1か月前では遅い、とのことで苦情を受けた。行事を進めていくうえで、早めの計画とお知らせ配信を心がけていく。

・育児担当制2年目となり、子どもたちの流れる日課において、少しずつ結果が見えてきたが、玩具の少なさや、環境作りにおいて努力が必要なので、来年度からは、園全体のみんなで定期的に園内研修で学んでいく。

・職員の休憩にはばらつきがあり、今後、全員がしっかりとれるようにしたい。